

本日 学生大会 に結集せよ！全学友は

2.4沖縄ゼネスト連帯市大スト権を確立せよ！

「二・四沖縄ゼネスト」

昨年2月以来、黒い鉄人B2は、嘉手納に常駐し始めた。そして、11月、12月と2度のB2爆発。事故は、沖縄県民を恐怖のどん底に落し入れ、沖縄全県民の心は、今、まさに壊れかかっている。二二に、生命を守る県民共闘会が生まれた。ある。B2爆発を要求して上京した。共闘会が県民共闘会代表団は、29日、政府の「誠意をもって、対米抗争にある」という態度に、反対を表明。ゼネスト政府指令を打倒した。戦後20数年、被支配者としての生活に、学生共闘の生活人権無視の生活に、心なりの怒りをこめて、2・4ゼネストに決起。つとしてい

いま、我々は...

今、我々に問われていることは何か。それは、2・4沖縄ゼネストにいかに関与し、いかなる形態で、2・4を、この市大で闘うのかというところである。これを決定する使命を担っているのが、1・31、本日の学生大会である。学生大会に対する不熱もある。しかし、この学生大会を成功させないということは、我々が、沖縄県民との連帯を拒否したことになるのである。我々は、この場において、2・4ゼネストの意義を確認し、この市大において、ストライキで闘うことを確認し、受けなければならない。

では、我々は如何になるべきか...

まず、学生大会に参加することである。試験前の貴重な時間、誰しも逃がしたくなくなるかもしれない。しかし、君はそれだけの。優な一つ増えるかもしれない。しかし、その優は、似せ物ではないか。君は、ほんとに優をとる力を持っているなら、君の目は沖縄の現状に向くはずではない。エゴイスムを抱えて、沖縄というものを考えてみるべきではないか。沖縄の現状に誰しも腹を立てるだろう。その感情と学生大会の中で育てようではないか。今までの学生大会は消滅だけを残したかもしれない。今日開かれる学生大会をそんなものに終わらせてはならない。我々、一人一人が、この学生大会に真にならなくていくことで、更にあるものとしていけるのではないか。次に、この学生大会でストライキを決定することである。2月4日は試験日である。ある。だから、ただそれだけで、我々は闘いながらにいていいのか。沖縄の情状は、総合的な指令に及びはるが、生活もなくて、ゼネストも決行しようとしている。それは、我々の試験日よりもっと大きな壁と乗り越えているのである。沖縄ゼネストの持つ「史的意義」を考える前には、我々の試験は、もはや問題ではなくなる。二日四日、我々は闘わなければならない。では、我々は、何故ストライキを提起するのか。示さなければいけないのか。成程、何もストライキなどなくても示さへ行ける。な、何人行こうとも、それは、個人である。今我々に問われているのは、各個人がどうするかというところと共に、市大自治会として、市大としてどうするかというところではないだろうか。市大で、学問をしてきた学生としてどう考えるのか。それが問われているのである。それに答えるには二つしかない。

「我々は、沖縄県民の生命の安全が、種々の権利、著しく侵害されているのを黙認できない。我々は、試験を受ける権利を捨てても、その権利を成守する。我々は市大ストライキで闘うのだ」と。

革新GROUP